

# 資料 24-10-01

科学技術を生かした防災・減災政策の国際的展開に関する検討委員会（第24期・第9回）

## 議事録

1. 日時 令和2年4月23日(木)10:00-12:16

2. 会場 オンライン会議

3. 出席者 26（敬称略、名簿順）

武内和彦、小池俊雄、春山成子、大西隆、春日文字、川崎昭如、小松利光、  
佐竹健治、寶馨、塚原健一、山川充夫、和田章、高橋良和、西嶋一欽、  
緑川光正、望月常好、山岡耕春、天野雄介、小野裕一、佐谷説子、田村圭子、  
西川智、西口尚宏、林春男、廣木謙三、ラジブ ショウ

陪席者 多々納裕一（京都大学）、田端憲太郎（NIED）、池田鉄哉（ICHARM）

4. 配布資料

<http://dias-edb.tkl.iis.u-tokyo.ac.jp/openfb/cgi-bin/opentop.sh?tkoike+448858939923> に掲載

5. 議題

アクション・アイテム

（1）前回議事録確認

<資料 09\_01\_第8回\_防災減災国際展開検討委員会\_議事録（修正版 0324）.docx>の説明

（2）審議事項

1) 提言について

【OSS やファシリテーターに関連する具体的事例の紹介】

<資料 09\_02\_01m\_20200420\_小池委員.pdf>の説明

<資料 09\_02\_01n\_20200420\_林委員 input.pptx>の説明

- ・ コロナ渦の中豪雨災害の発生など、複合災害や相互作用に関する部分はどう考えるか？
  - 複合災害は、応急対応のところで処理をすべき重要課題。コロナ対策は公衆衛生の専門家が必要であるが、水害発生後は基本的には水害と応急対応の専門家が必要。
- ・ 復興は公のレベルであるが、コミュニティはどう位置づけられるか？
  - 下から上に行くに従って、公が関われる部分は少なくなる。コミュニティは互助（顔見知りの間の助け合い）および志が同じ人が集まる活動（公助に近い）と考える。
- ・ 都市計画が大きく位置づけられているが、農地や漁村はどう入ってくるのか？
  - 経済活性化の中で考えていけないか。社会基盤の要素も強い。復興活動全体から見たら、農地は復興の仕組みが良くできている分野。

## 資料 24-10-01

<資料 09\_02\_01o\_20200419\_川崎委員 input.pptx>の説明

<資料 09\_02\_01j\_提言案\_修正\_20200422.docx>の説明

### 【科学者コミュニティについて】

- ・ 「科学者コミュニティ」とは、土木学会や建築学会、○○大学などであると思うが、「コミュニティ」や「科学者」とは異なるのか。
  - （学会など）科学的リテラシーが高いグループとの協働が必要。国際グループとの協働も含めて、「科学者コミュニティ」という表現が適する。
- ・ OSS の開発主体は、学会や防災減災連携研究ハブ、防災学術連携体など、Institutional な体制を持つところ。
- ・ 本検討委員会で議論されている概念をもとに、フォーマットが示されて、それに合うかたちで、(科学者コミュニティは) データをインプットする必要があるのか？データ・インプットは各コミュニティで進められるが、知を統合する役割はどう進めるか。
  - （情報科学の専門家との協働により）クローリング機能を使って自動的に情報を収集する必要があるが、オントロジーの構築など情報を論理付けるのは専門家の役割。
- ・ 提言 1：大事なものは、「各国で活用されるために」母国語を使えるようにすべき。
  - 「可能な限り」は不要。

### 【ファシリテーターについて】

- ・ 母国語を主張するのであれば、「ファシリテーター」も適切な日本語表記が望ましい。
- ・ ファシリテーターとは。
  - その会議の主体テーマの専門性は必ずしも高くないが、議論を組織する役割を持つ人。能動的な司会者。
  - 会の進行にはいくつかの機能を持つ人が必要。会を円滑に進め時間内に収める人（司会者）。課題を解決するための議論の促進を担う人。専門的な知識においてインプットする人（専門的助言者）。
    - ◇ 専門知識がなく、進行に重きをおいた司会者だと議論が深まらない。その部分は OSS を使い専門知を補う。
  - 一般的に、ファシリテーターは司会進行役と捉える人がいる。本提言のファシリテーターは、問題解決するための専門性を持ちつつ、OSS を使ってさらなる専門的知見を補うことができる人であることを明記する。
  - 社会的科学発見を担う科学者のこと。
    - ◇ ファシリテーターの言葉の整理を含めて、概念整理はもうひと工夫必要。

### 【扱うデータについて】

- ・ Online Synthesis System Data Lake の中で、有料のデータは扱うのか。

## 資料 24-10-01

- ▶ 長期的に見れば、無償でインターネットに出ることを期待したい。冊子体のコンテンツをそのまま受け取るか、ある部分が無償で受け取るか。最終的には、税金で作られたものは無償で公開されるようになったら良い。
  - ✧ 各学会は、会費や本を売ったお金で、経営が成り立っている面がある。
- ▶ データ共有の分野では、有償と無償のものは分けている。
  - ✧ 何れも検索はできるが、有償のものを手に入れるためにはお金を払う。
  - ✧ 引用するという方法もある。

### 【OSS について】

- ・ 提言 1 にて、OSS を日本語で説明する。
- ・ OSS と関係当事者とファシリテータの関係において、科学コミュニティの位置づけが分かりづらいので、もう少し整理が必要。
- ・ Google は自分の持つ知識の中でしか情報を検索できない。自分の持つ考えとは違う情報が得られることが OSS の特徴であることを強調したほうが良い。
- ・ 提言 1 や提言 2 にて、「社会の協力の中で」の社会は何を指すのか？現場の関係当事者は、何を指すのか？
  - ▶ 「社会の協力の中で」「現場の関係当事者」は同じものか。すごく意味があるのであれば別であるが、「社会」の定義は大変なので書かなくても良いのでは。
- ・ 批判やフリーな意見に対して、都合が良い方だけを解釈して、知の統合が行われるとよくない。OSS では、批評に対する部分も重要な要素だと考えている。統合はある考え方で統一するというより、ある情報が一元的に収集されており、様々なファクトや解釈が整理されている、という意味。
- ・ 知の統合は、Unify ではなく integrate。単一のものにするものではない。いろいろな解が提示されて、最終的にはユーザーが選ぶ。

### 【今後の進め方】

- ・ 本日の議論をもとに、「ファシリテーターの位置づけ」「(カタカタ)用語の使い方の吟味」「社会の協力“や”Google との違い」を明確に書く」ことを中心に提言(案)を修正する。連休前に本検討委員会で修正文を回覧して、連休明けに意見を集約し、5/15 を目処に委員会としての案文を固める。すべてをメールベースで行う。
- ・ 5 月末までに、査読委員会へ提出する必要がある。査読には約 2 週間を要する。詳細スケジュールについては、追って日本学術会議事務局から小池委員長に連絡する

### 2) 防災推進国民大会 2020 参加について

- ・ 議論の中心を、提言にするか、COVID-19 にするかに関して、メールで意見交換を行う。

## 資料 24-10-01

### (3) その他

<資料 09\_02\_03a\_Resilience against biological hazards and pandemics COVID-19.pdf>の説明

- ・ 防災の枠組みの中で、**Biological hazards** を考えていかないといけない。災害としての COVID-19 の捉え方。国のガイドラインに入れていかないといけない。

<資料 09\_02\_03c\_HELP.docx >の説明

- ・ コロナ渦中に水災害が起こる可能性があるので、その対応を整理している。災害に対応する関係者をコロナ渦からどう守るか。医療関係者を災害からどう守るのか。ロックダウンの都市で災害が起きた場合、どのように対応するか。コロナ感染者を災害からどう守るか。
- ・ 近日中に、HELP のウェブサイトで公開。お気づきの点があれば、廣木委員へ連絡を。

<資料 09\_02\_03b\_GADRI の活動.pptx>の説明

<資料 09\_02\_03d\_岐阜大他\_20200414 版.pdf>の説明

- ・ コロナ渦の中で、どういうふうに避難勧告を出すべきか。
- ・ 安全なところに住む住民は自宅待機も可能などに関する技術的な検討を行っている。垂直避難も含めて、どういう風に情報を出すか。
- ・ 内閣府の SIP でも、避難勧告の出し方に関する検討を行っている。

※ 防災・減災政策の国際的展開に関連する今後の国際会議等の開催予定

表 防災・減災政策の国際的展開に関連する国際会議（開催順）

#	会議名	期間	開催地	備考
1	第 17 回世界地震工学会議	2020/09/14-18	日本・仙台	日本政府観光局（JNTO）主催の「平成 29 年度国際会議誘致・開催貢献賞」で誘致の部で受賞
	関連 URL : <a href="http://www.jaee.gr.jp/wp-content/uploads/2016/12/bid_17WCEE_161116_20mb.pdf">http://www.jaee.gr.jp/wp-content/uploads/2016/12/bid_17WCEE_161116_20mb.pdf</a> <a href="https://www.jnto.go.jp/jpn/news/press_releases/pdf/20180201_2.pdf">https://www.jnto.go.jp/jpn/news/press_releases/pdf/20180201_2.pdf</a>			
2	IDRiM 2020 Conference	2020/09/22-24	日本・京都	
	<a href="http://www.idrim.org/?p=4453">http://www.idrim.org/?p=4453</a>			
3	ぼうさいこくたい 2020	2020/10/03-04	日本・広島	
	<a href="http://bosai-kokutai.jp/">http://bosai-kokutai.jp/</a>			
4	IRDR Conference 2020	2020/10/03-04	中国・成都	
5	5th Global Summit of GADRI	2021/03/15-17	イタリア・ミラン	
	<a href="http://gadri.net/resources/2020/03/5th-global-summit-of-gadri-engaging-science-with-action.html">http://gadri.net/resources/2020/03/5th-global-summit-of-gadri-engaging-science-with-action.html</a>			
6	世界防災フォーラム (WBF) 2021	2021/11/19-22	日本・仙台	
	<a href="http://www.worldbosaiforum.com/">http://www.worldbosaiforum.com/</a>			